

ごみはトラベラー

ごみ収集車がやってくる

学校の関連学習単元

小 4 / 社会
住みよい暮らしをつくる（ごみのしよりと利用）

プログラム 概要

対象

幼 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中学 大人
○ ○ ○ ○ ◎

分野	時期	時間	人数	場所	講師 / 補助	費用
廃棄物	通年	45分 (1時限)	40人 (1クラス)	校庭	2人 / 1人	無料



廃棄物

ねらい

- ・ごみがどのように集められ、どのように処理されるかを知り、ごみの減量とリサイクルの必要性を学ぶ。
- ・雑がみ分別の効果を知る。

実施内容

- ・浜松市のごみの現状について説明を聞く。
- ・ごみ収集車の構造について説明を聞き、収集体験・乗車体験及び排出（ダンプ）の様子を見学する。
- ・ごみの減量とリサイクルの必要性について考える。
- ・ごみに関する質問タイム。

使用する材料・道具

◇受講者が準備するもの ◆講師が準備するもの

◇筆記用具
◆ごみ収集車

◆サンプルごみ
◆ワークシート

講座活用のワンポイントアドバイス

- ・学校向けプログラムです。一般の方は申し込むことはできません。
- ・午後の開催を原則とします。
- ・「今日から我が家の分別係」のプログラムと併せて受講すると理解が深まります。
- ・清掃事業所へ見学に行くことができない学校を想定した内容となっていますが、見学後に振り返りのために受講することもできます。
- ・各清掃・環境事業所の通常業務がありますので、受講校数を制限させていただきます。（小学 4 年生の受講を優先します。）

【雨天の場合】

雨をしのげる場所（ピロティ等）にごみ収集車を駐車することができれば実施可能です。

実施機関

浜松市環境政策課（浜松市環境学習指導者）
浜松市一般廃棄物対策課、各清掃・環境事業所

下記連絡先へ実施日の 2 か月前までに申し込んでください。浜松市環境学習指導者を講師として派遣します。
また、事前打合せが必要なため、講座実施の 1 週間前までに講師へご連絡ください。

問合せ・申込先： 浜松市環境政策課 TEL：053-453-6149 Mail：kankyou@city.hamamatsu.shizuoka.jp
申込方法はホームページをご覧ください。



プログラムの展開例

時間	内 容	指導のポイント
導入 10分	○ごみの現状（多さ）について説明する ・次の重さの袋を用意して参加者はどれくらいのごみを出しているか実感する。 ① 約 1kg 袋 (1 人 1 日分) ② 約 4kg 袋 (4 人家族 1 日分) ③ 約 26kg 袋 (4 人家族 1 週間分) 	・参加者に 1 週間分のごみを持たせてみて、ごみの量の多さを気づかせる。 ・ごみ減量の必要性を伝える。 ・浜松市全体のごみ排出量 1 日 720 トン =25 メートルプール約 2 杯分
体験 25分	○ごみ収集と収集車（パッカー車）の仕組みについて説明する ・集められたごみがどこへ運ばれ、どのように処理されるのか。 ・パッカー車と平ボディ車を紹介する。 ・ごみの最終処分について紹介する（平和最終処分場について）。   ○ごみ収集体験をさせる ・ごみ収集車へのごみ袋投入体験をさせる。 ・ごみ収集車へ乗車体験をさせる。 ・ごみの排出の様子（ダンプ）を見学させる。 	〔平和最終処分場の概略〕 ・埋立地の広さ 約 120,000m² ・埋め立てできる量 約 1,310,000m³ ・今後、埋め立てできる量 約 360,000m³ このまま埋めていくと、あと 20 年でいっぱいになる。 ・（清掃事業所に見学へ行かない学校を想定して）ごみの処理について説明をする。 ・ごみの種類によって車を使い分けている理由を説明する。 ・回収された資源物のリサイクルについて説明する。 ・ごみ収集の際の困った事例を紹介し、正しい分別やごみ減量について啓発する。 < 安全管理 > ・けがのないように配慮する。
まとめ 10分	○雑がみについて紹介する ・可燃ごみの組成を紹介し、雑がみ分別回収の必要性を伝える。 ・雑がみ分別のポイントを紹介する。  ○質問タイム ・参加者からごみに関する質問の時間を取る。	・可燃ごみの約 40% が紙類。ごみを減らすためには、雑がみ回収による紙類の減量が必要。 ・雑がみの分別についてサンプルを使って紹介する。 ・正しく分別することが、リサイクルにつながり、ごみになるものが減ることを伝える。

